

平成 26 年 8 月 8 日

関係各位

弘前大学大学院保健学研究科

研究科長 木 田 和 幸

第 16 回青森継続看護研究会  
第 3 回放射線リスクコミュニケーション教育部門講演会  
合同開催のお知らせについて (通知)

拝啓

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は本学の教育、研究につきましてご支援ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、本研究科では別添のとおり「災害と継続ケア」をテーマとした講演会とシンポジウムを開催する運びとなりましたのでお知らせいたします。

とりわけ、先の震災後、社会から高く注目され、環境省並びに文部科学省でも推進しております「災害リスクコミュニケーション」に焦点をあてており、地域防災力の向上を図るべく各関連機関関係者や教育者の方々にご参加いただきたくご案内しております。

つきましては、関係各所へのご周知をお願いいたします。

時節柄ご多忙かと存じますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

敬具

<担当>

弘前大学保健学研究科 総務グループ桑田

〒036-8564 青森県弘前市本町 66-1

TEL : 0172-39-5905

FAX : 0172-39-5912

E-mail : [kuwata@cc.hirosaki-u.ac.jp](mailto:kuwata@cc.hirosaki-u.ac.jp)

平成 26 年 8 月 8 日

第 16 回青森継続看護研究会  
第 3 回放射線リスクコミュニケーション教育部門講演会  
合同開催のお知らせ  
開催テーマ「災害と継続ケア」

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび、「災害と継続ケア」をテーマに講演会とシンポジウムを開催する運びとなりました。

平成 23 年の大震災から 3 年半を経ましたが、人々の思うような復興には至っておらず、特に福島においては、住み慣れた故郷にこの先も戻れない人々が多くいらっしゃいます。被災地ではいまでも仮設住宅に住み、専門職がその人たちをケアし続けています。そこで、災害後の、長く続く継続ケアについて、経験を風化してしまわないよう、災害支援がどのように続いているのかを参加者とともに共有する意義があると考えております。

なかでも、環境省や文部科学省でも大きく取り組んでいる「災害リスクコミュニケーション」に焦点をあてます。東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故をきっかけに、「安全・安心」「専門知識への信頼」は大きくゆらぎました。災害時とその後のリスクコミュニケーションは、欠如モデルに基づく政府や専門家による一方的な伝達ではもはやない！ということも、国民が認識したのです。そこで、今後の災害対策の構築にあたり、災害リスクコミュニケーションがいかにあるべきか、災害ケアの経験の語りをもとに、参加者とともに考えたいと思っています。かつ、青森県には原子力発電所があることから、放射線災害も含めた形での議論も必要であると考えております。

県内医療機関をはじめ、各自治体、各自治体の教育委員会、大学、消防関係、訪問看護ステーション等にご案内いたしております。ご多忙のことと存じますが、関心をお持ちの多くの方々のご参加を賜りたく、関係各所へご周知くださいますようお願い申し上げます。

参加は無料、事前登録は必要ございません。多くの方々のご参加をお待ちしております。

敬具

記

開催日時：平成 26 年 9 月 14 日（日） 13:00～16:30

開催場所：弘前大学医学部コミュニケーションセンター（青森県弘前市在府町 5）

内容

▶ 教育講演 「災害のリスク・コミュニケーション」

講師 京都大学防災研究所巨大災害研究センター 矢守克也 教授

▶ シンポジウム 「災害発生～今へと続く被災者への支援経験からの提言」

コーディネーター 矢嶋 和江 氏（弘前医療福祉大学 教授）

シンポジスト

岩手県大槌町での保健師支援活動からの提言

鈴木 るり子 氏（岩手看護短期大学 教授）

原発事故後の被ばく者支援活動と被災地住民への健康相談からの提言

吉田 浩二 氏（福島県立医科大学 災害医療総合学習センター 助手）

東日本大震災を経験した訪問看護ステーション - 災害時の活動と心境・これからの活動 -

根本 寿子 氏（社団医療法人養生会 かしま訪問看護ステーション 所長）

学生ボランティアとして支援を行った経験からの提言

日野口 早希 氏（三沢市役所 職員）

以上

問い合わせ先 TEL) 0172-39-5518 e-mail) kuwata@cc.hirosaki-u.ac.jp（桑田）

# ● 合同開催

第16回 青森継続看護研究会

第3回 放射線リスクコミュニケーション教育部門 講演会

## ○ 災害と継続ケア

### ○ 会場

弘前大学医学部コミュニケーションセンター

※事前の申し込みは必要ありません。  
参加費は無料です。

### ○ 日程

9月14日(日) 13時~16時半

### ○ 教育講演 講師：矢守 克也 氏

京都大学防災研究所巨大災害研究センター 教授

「災害のリスク・コミュニケーション」

座長：木立るり子氏 弘前大学大学院保健学研究科 教授

### ○ シンポジウム

「災害発生～今へと続く被災者への支援経験からの提言」

コーディネーター：矢嶋 和江 氏 (弘前医療福祉大学 教授)

シンポジスト：

岩手県大槌町での保健師支援活動からの提言

鈴木 るり子 氏 (岩手看護短期大学 教授)

原発事故後の被ばく者支援活動と被災地住民への健康相談からの提言

吉田 浩二 氏 (福島県立医科大学 災害医療総合学習センター 助手)

東日本大震災を経験した訪問看護ステーション

- 災害時の活動と心境・これからの活動 -

根本 寿子 氏 (社団医療法人養生会 かしま訪問看護ステーション 所長)

学生ボランティアとして支援を行った経験からの提言

日野口 早希 氏 (三沢市役所 主事)

共催：弘前大学大学院保健学研究科

地域保健医療教育研究センター 多職種連携医療推進部門

高度実践被ばく医療検討委員会 放射線リスクコミュニケーション教育部門

<http://rem-hirosaki.jp/>

社)青森医学振興会の助成を受けて開催致します。

問い合わせ先 TEL) 0172-39-5518 e-mail) [kuwata@cc.hirosaki-u.ac.jp](mailto:kuwata@cc.hirosaki-u.ac.jp)